



平成30年11月12日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様

会派名 創政会

代表者名 梅村 均

第80回全国都市問題会議報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 平成30年10月11日(木)～10月12日(金)
- 2 研修先 シティホールプラザ アオーレ長岡(新潟県長岡市)
- 3 出席人数及び氏名

1名	梅村 均	

- 4 復命事項

別紙のとおり

第80回全国都市問題会議研修報告書（創政会）

作成者：梅村均

日 時：平成30年10月11（木）～12日（金）

研修先：シティーホールプラザ アオーレ長岡（新潟県長岡市）

参加者：梅村均

テーマ：「市民協働による公共の拠点づくり」について

主な内容：

（10月11日）

【基調講演】「地方分権へのまなざし」

講師：本郷和人氏（東京大学史料編纂所教授）

- ・日本はほかの国に比べて比較的穏やか。争いごとは織田信長が比叡山虐殺で一番ひどいかな。4000名の虐殺だった＝東大の先生の数とほぼ同じである。
- ・中央分権と地方分権のあり方を今一度見直しをしてみてもどうか。
- ・事件、事象はその時代と密接につながっているので、現代の人が善悪をつけてはいけない。日本が生き延びなければならぬ過酷な状況があった。→明治から中央集権、天皇家を掲げて、西欧列強に追いつけおいこせという国づくりをしてきた。
- ・ヨーロッパの皇室＝KING 日本はエンペラー（さらに上の意味となる）
- ・大化の改新、建武の中興、明治維新が日本の三つの大きな改革（小林秀雄が言った。）
- ・歴史は少しずつでも右肩上がりになるのが本来と思う。失敗を繰り返しても建て直している。
- ・日本は貿易はあまりなかった。略奪、攻め込まれることがなかった。逆に言うときちんとやれば日本国内だけでもやっていける国ではないだろうか。
- ・人間の歴史を学ぶなら日本の歴史を知るとよい。よそからの侵略をうけていないから。
- ・人口に注目すべき。600年で600万人、1600年で1200万人、つまり1000年かけて人口が倍になった。戦争、飢え、病気など人口増を侵害するものがありなかなか増えなかった。
- ・江戸時代＝平和な時代。100年間で人口倍以上に。2500万人に。平和は尊い。右肩上がりしてきた。
- ・20円から30円で1万円札ができるようだ。正式発表していないが。そのような安くできる紙切れが1万円で通用する。＝国家の信用

- ・古代の商取引 米、絹といった物々交換。宋から銅銭が入ってきて、鎌倉時代貨幣経済がはじまる。
 - ・66の国を日本におく。日本列島すべてを均一に統治できたかは疑わざるを得ない。東北 太平洋側1つ=陸奥の国、日本海側=出羽の国1つである。これはそもそも納めようと言う考えがなかったのでは。
 - ・県庁=国が、国司がきていたが、途中からこなくなり京都に集まる。地方へは代官が赴く 在庁官人
 - ・都のやり方が地方に伝わり取り組まれているがどのくらい伝わっているかはわからない。税を納める程度では。
 - ・在庁官人は、自分の身は国や都は助けてくれない。武装して自分を守る。武士の誕生 →東の方に源氏
 - ・新しいものは西からやってきた。アジアの国、朝鮮。
日本というのは西に開かれている国であった。玄関口は博多。平安時代にすでにチャイナタウンがあった。
 - ・太平洋側の交易は危険であった。日本海側が盛んであった。次いで瀬戸内海バルト海の交易が日本海交易に当たる 地中海が瀬戸内海
 - ・上杉謙信、直江津での交易が盛んに。大変豊かであった。
 - ・今の日本の発展地域とはぜんぜん違やかたちであった。
 - ・東の開発が進み出すのが、鎌倉時代になって幕府を開いてから。ただ儉約であった。
 - ・1250年代、貨幣経済が浸透してきた。国と国、高い山、深い川をものともしないで銭が地域と地域を結んでいく。
 - ・秀吉が日本統一した。東北まで足を延ばしどう統一するかやっている。青森から鹿児島まで統一される。
 - ・徳川幕府で江戸が大きく変わる。
 - ・基本的には、西が強い、東がそれに追いつけ追い越せで成長してきた。
 - ・西「=くだらない」の語原 おいしいお酒は関西圏からきた。くだってくるものはすばらしいもの。徳川の西に負けないようなもの→しょうゆづくりはいいものができた。おいしいお酒はできなかった。くだってこないお酒はくだらない=おいしくないの意となった。
- 関西・関東の関とは関所。京都を守る関所。すべて東にある。福井、不破、鈴鹿、関東と言う言葉は古い。関西と言う言葉は必要なかった。明治に関西という言葉が生まれた。

- ・徳川がなぜ江戸に都をつくったのか？朝鮮出兵に失敗し、内需の拡大で国を豊かにする事を考えたのでは。関東東北は生産をするポテンシャルを秘めていると考えたのでは。越後（35万国＝小さかった）の生産力は江戸時代に入って260年の開発の結果、100万国になった。（幕末）人口も日本列島で江戸と並ぶ人口を誇っていた。降雪をものともしないで石高が伸びていった。伊達も60万国であったが、実際は100万国越えていたと言われている。
- ・尾張の国は小さな国。しかし山地なし・平野ばかり 57万国あった。美濃60万国 伊勢60万国の北側半分を信長が納めた。3-4万人の軍勢を動かせるだけのものがある。土地の豊かさで天下をとれたのではないか。
- ・各地域に人材も育ってきた。その人材を遺憾なく使ったのが明治政府
- ・明治政府は人材集める。東京一極集中で西欧列強に負けないように。黒船への対応も。
- ・人材一局集中、受験集散が太平洋戦争に結びついたかどうかは論点がわかるどころ。
- ・次の黒船は何か＝人口減少なのでは。今のままの日本の力で良いのならこのままでも良いかもしれないが、これ以上国力を落とさないと思うなら権限委譲、地方分権を。

【主報告】「長岡市の市民協働」

講師：磯田達伸（新潟県長岡市長）

- ・長岡城のところに長岡駅があった。
- ・米百俵の精神でひとつづくりが大切と考える。
- ・士族と町民の協働＝ランプ会の開催。新しい時代の商工業を考えた。
長岡会社病院→長岡赤十字病院に
- ・市民有志が公園を整備。市民が主体 行政が黒子の位置づけ。
- ・ともしび運動 80年後半-90年代 福祉団体の作品展示など。
- ・花いっぱい運動 種から育てて、まちを美しく庭先を美しくしよう。
コンクールもある。130団体前後の参加 新潟県、全国大会へも上位で入賞
市民団体 ボランティアの協力によるもの
- ・フェニックス花火：市民発意による花火 NPOネットワークフェニックス
協賛金1000万円集めるなど中心に活躍。
- ・自主防災会 結成率91.7% 全国平均82.7%
- ・アレルゲンフリーの米粉クッキー 避難所で支給されるもの 5年保存

国の補助金が出るよう市が支援した。

- ・官民連携チームで岡山県高梁市を支援した。スムーズに援助に入れることも。現在でも土木職員を派遣中
- ・司馬遼太郎の小説 峠が映画化に。東京オリンピックにあわせ侍文化を表現 市民エキストラ、消防団員によびかけた。
- ・市民団体) 専門分野 歴史 ネットワーク 現場力 などあり
- ・市民協働とは市民同士がつながり活動することでは。はじめから行政ありきではない。もともとの市民の力が必要。どれだけ行政がサポートできるかが課題。
- ・行政は市民が集まる場所をつくる=拠点
 - ・コミュニティセンターを小学校区単位につくっている
 - ・もともと公民館、福祉センター、児童館がばらばらであったが機能を一元化した。
 - ・子育ての駅=保育士のいる屋根付き公園で雪が降るので使えないから屋根付けた。屋根は国交省の補。館にしたいとなって厚生労働省の援助を。子育てコンシェルジュがいる 13施設あり
 - ・地域の保育園に子育て支援センターを併設している24箇所
 - ・地域限定の施設は嫌がる人もいる。なので子育ての駅にそういう人はいける。

<まちなかの変遷>

- ・大手通りは人いっぱいだったがシャッター通りに。商業施設の連鎖的名閉鎖 8店舗ほど イトーヨーカドーも 市役所を中心市街地へもってきた。
- ・アオーレ長岡 アオーレ=会いましょう。民間イベントでの利用が多い。出来てから、空き店舗 36%減少 (309→198)、店舗数が1.2倍、既存の駐車場利用が1.4倍に。
- ・会って情報の交換が行われる場所が必要。新しい公共空間となった。

<交流人口拡大に向けた協働>

- ・広域に観光連携事業: 中川せいべい記念BBQビール園をつくった。今は地元の運営会社で経営。
- ・長岡米百表フェス: アーティストもすごいが食の特色も発信
- ・ながおか花火館の整備中 運営は民間にまかせたい
- ・多くの文化財 醸造のまち せったや 小布施のようにしたい

<大きな変化の時代をのりきる 何に取り組む必要があるのか>

- ・長岡版のイノベーション: 米百票プレイス=100年先の長岡をつくるため 住宅、銀行、にぎわい、商業施設などあり。コッカン学校跡地の再開発事業
- ・高等教育機関との連携 4大学1高専で 起業塾 プログラミングなど

【一般報告】「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

講師：前葉泰幸（三重県津市長）

- ・ P F I 方式による斎場整備
- ・ 一般廃棄物最終処分場の整備 クローズドスタイル
地元対策で矢頭トンネル開通：処分場へつなぐ道として市も負担した。
交流センター：温泉施設タンクローリーで近くのをはこぶスタイル
- ・ どうなるのサオリーナ＝スポーツセンター建設工事→市民にきちんと説明をしていくこと大事
- ・ 津センターパレスビル（第3セクタービル）
- ・ ダイエーが撤退
- ・ 不都合な真実もあるが、説明していく。最後は市民が協力して決まる
→市民との対話を
- ・ みさとの丘学園の開校＝市民から出てきたアイデアをどう受け止めるか
3つの小学校をどう統合するか：一つにしたいのはみんな思っていたが、どこかに行くのはいやだ。ならば中学校に合併させようとなった。
→行政が中途半端に決めてはいけない。市民の意見をきくこと。
- ・ 市立幼稚園が多い。津みどりの森こども園の開園。津中心部の幼稚園、経営厳しくなった。幼稚園3つと保育園一つを合併して子供園にしよう。
そのときの対話：地域の人とコミュニティの関係で話をした。保護者とも話をしている。地域では、コミュニティの施設が狭いなど意見あり、公民館などもパッケージで示してほしい。
- ・ 今作るのだから今必要なものを、複数の施設を一緒にする。
歴史を学べる部屋を、消防団の車庫も入れよう、フローリングに、など地域と徹底して議論した。行政から利用率低いからなどという提案は反発をかう。
“大きい施設から利用しやすい施設へ”
- ・ 安濃庁舎周辺の公共施設配置では、あとう温泉があり、また公民館にも保険センターにも調理室があった。保険センターの調理室利用者から拡張案が出された。消防団詰め所という消防団からも意見あり。
- ・ 30年先も必要な公共施設を考えるのは誰か＝市民 ただ行政は丸投げはいけない。情報は行政が一番持っているから。それをきちんと出す。情報だけでも市民は暇ではない。行政がやるべきことは責任をもって案を出すこと。八方美人の案はできない。案はたたかれる。→行政出したくないとなっている。
でも、行政は案を作って説明する。住民意見により変えていく姿勢を。できないと言うのは簡単なこと。

問 市民に聞けば聞くほどぐちゃぐちゃになるのでは 何かコツは？

答 市民は忙しい。無関心。数うって情報公開をする。

職員と市民で1タイ1で根回しをする。本音を聞きだす。

(市民は大勢の場で意見しにくい。)

そうすることでだんだん意見が集約されていく、市民に見合ってきていると思えばうまくいく。

問 地域への説明と投票率との影響は

答 地域懇談会を始めた。各地区年2回の計74回。地域の課題を受け止め、次に来るときまでに解決策を探す。早くすべきことはしている。今200回を越えている。地域には課題がある。なかなか解決しない。1年に2回がよい。

(半年に1回)。1年に1回だと人事異動がある。それを見込んで職員は動かない場合ある。地域には最後の言える場所がある。市長に言える。職員は市長に言ってほしくないと思っている。投票率はなかなかアップしていかないがこれは別物で他の対策が必要と考える。

問 職員はいつ地域に出向いてやることのできるのか

答 強制はしていない。机の上で考えているよりは、地域の人、団体の代表者に聞いてくればよいとしている。現場にいつ解決してくる。自分の仕事を早く終わらせるために地域に出向くように指示している。

問 情報の鮮度、決裁などで遅れないか。いかに早く出すコツは

答 広報など決められたもので出すときは遅くなる。ホームページは更新している。広報課が頻繁に市長室にはいつてくる。熱中症の問題でればすぐやるようにしている。広報課が頑張っている。

問 学校再配置で情報公開はいつ頃が良いタイミングなのか。学校の生徒減っている。

答 地域の誇り、拠点として必要と言う高齢者と大きな学校へ行ける、送ってくれば良いとする若者が対立する。情報は常に出し続けるのがよい。潮目が変わる時があるので、感覚を研ぎ澄ませて対応できるようにしていくこと大事。難しいことであるが、地域には行って掴みとる。チャンスを逃さない。

問 公共施設の関係で跡地はどうしているか

答 売却を決めたところはしているし、使うと決めたところはそのようにしている。売却といってもなかなか売れないものでもある。入札などで売却している。

問 議会と首長の関係だが、これだけ市民と対話してもらおうと議会の反応はどうなるか

答 議決を飛び越えて市民と話す必要はない。議案でやってほしい。事前にちよろちよろやってほしくない。という意見もあるが、情報を議会へも随時出すようにしている。政治への関心、市政への関心を持ってもらうことが重要。市民参加を高めたい。

【一般報告】「場所の時代」

講師：隈 研吾氏（建築家・東京大学教授）

- ・世界の公共建築もしている。20 世紀のお堅いものから柔らかいものへ模索しているように感じる

<アオーレ長岡>

- ・土間のある市役所 広場＝土間 土間が主役
土間＝作業して気楽に立ち寄れる場所。土と陽がある。
- ・屋根 すのこのようなものつけた。木漏れ日効果がある。
- ・木を張り付けるだけだと重くなるのですのこ状にした。
- ・設計にあたりワークショップをやった。子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで。緑がもっとほしいと言う意見に対し緑もってきた。
- ・公共広場のいすはベンチが多い。なぜなら盗まれるから。しかしベンチは座る方向決まっているし、隣に座るしかない。
海外の公園では人がよりつかない。（売人いるか？）→置き式のいすにしたら人が戻った事例もある。
- ・ホールと中庭一体的に使える。倉庫のような扉をつけた
- ・街路から気軽に入ってスムーズに入ってもらえるように、まちと一体化するように考えた。
- ・太陽光パネル開け閉め可能
- ・NPOが活用できる空間もとってある。市役所経由せずネットで予約できる。
- ・ガラス張りの議場あり。音楽会の開催も実施。
- ・以前の体育館の床材を使うなど、再利用もしている。ちょっとした表記看板に。
- ・橋原町の事例（林業のまち） 庁舎、図書館、保育園の紹介。→小さな工場でもできるサイズのものでつくる。地元企業参加できる。
- ・浅草のビル事例：7年前で柱だけは鉄骨。2年前建築基準法が変わったので今なら全部木出てきた。
- ・歌舞伎座：劇場の中というよりも周りが楽しかった。芝居まち まちが楽しかった。猿回しやっていたりなど。三越も着物の売り上げあがった。まちが潤う。

良い着物を来て歌舞伎を見に行きたい。着物をまちにみせる。江戸時代の感覚。まちを楽しめるような設計をした。

- ・豊島区役所：立体緑、水も流れている。メダカ 豊島区に昔からいる生き物が区役所にいる。→子供たちが見に来る。
- ・富岡製糸場：バスを距離あるところにとって、町並みを通して現地に行けるようにした。まちを歩く
- ・国立競技場：外苑のみどりに溶け込むようなものに。空中の森、渋谷川を再現 まちとの関係を重要視して。
- ・品川新駅：まちの活気が駅の中に入る。まちに貢献する駅。賑わいをつくる駅。駅の両側も一体化するように大きな屋根を付ける。
- ・北京の事例：河原を使ったものなど
- ・パリの事例：屋根を木で作ったら暖かさを感じてくれた（パリの市長）
- ・20世紀は鉄の時代で同じようなものをつくれればよかったが、これからは地域住民と一緒にやっていくことが求められているのでは。

【一般報告】「アオーレ長岡の発注者として」

講師：森民夫氏（筑波大学客員教授）

- ・受賞は3人で。市役所が市民協働で新たな公共空間をつくった。
- ・着工までに5年余りかけた。
- ・アオーレ長岡の場所は長岡城の二の丸があった。
- ・商業、業務・行政、公共交通、歴史、市民意識の中心 =長岡市の中心市街地ここに拠点をつくることは歴史的にも意味がある。精神を再現
- ・中心市街地の活性化とはいったい何の活性化なのかを考える。
市民と対話をして、多くの市民は商店街の活性化と言うよりも、駅前が寂れていることが寂しい。駅前にはぎわいを持っているもの。市民の誇りの問題と認識した。市民の誇りを取り戻す為に考えた。公共サービスでのにぎわいづくりでもよいし。駅前に拠点をもってきた。市民協働の拠点の創出になればと。
- ・資金面も大きな障害だった。→新しいものを創る、事をやる→補助が使える。130億のうち29億円は国庫補助。合併特例債も使えた。
- ・市民に開放した分、市役所として使えるスペースは減る。市役所機能の分散配置とワンストップサービスの実施。
- ・総合窓口を5年かけて検討した。これをやったうえで分散配置をした。
- ・屋根付き広場 自由なイベントを創造する。
市民：自由に自発的なイベント 結婚式 フリマなど
行政：晴れのイベント スポーツ大会など

- ・まちなかにあれば、職員、議員が市民の目によくつく。日常的にまちづくりの議論がなされる。同じ目線で。
- ・設計コンペを実施：発注者としてどういう理念でつくるかを建築家に明示することが大切
- ・平成19年 コンクリートから人への時代 箱物作るの反対の背景もあった。
→100回以上のミニ集会を開催して信念を説明した。
- ・イベント例 市主催) 成人式、音楽祭
市民主催) 大相撲 フィギュアスケート
手作り) 高校生長岡ラーメン選手権 県内から参加
世界えだまめ早食い選手権
越後長岡酒のジン おいしいさけにおあーれ
保育園遠足 日頃の勉強の成か発表 高校生自主学習
- ・NPOが運営：行政イベント15% 85%が市民主催イベント
- ・誕生効果は市民の誇りが上がったことに満足している。
- ・すのこ：木の隙間それぞれ違う。こういったことが鉄やコンクリートに潤いを与える。
- ・市長室は三方向がガラス張りである。

【一般報告】「アオーレ長岡での市民協働の実践

講師：森本千絵氏（アートディレクター） （博報堂）

- ・にぎわいを担当してほしいと言われ取り組んだ。境界の店を飲み歩いて意見を聞き、商工会、各種団体にも聞いた。
- ・建物が建つ前、この場所にはいろんな思い出があることがわかった。
- ・外壁から続きの縁側の設置をした。大きな足のオブジェあり。子供たちも楽しんでる。
- ・花火と食と音楽として米百俵フェスがある。
- ・「子縁」という活動している。
- ・目を閉じて人間を感じる。心が動く習慣を体験している。
- ・デジタルが自然にある感覚＝ソニー、新しい発想であるスイッチをつくった。
- ・これまで育ってきた中にもヒントがある：懐かしい未来、ユーミン
- ・保育園の扉を3つに。大人用 園児用など
- ・植木鉢を入園児に。育てて、卒園時に持って帰る。
- ・横浜では、お墓のデザインもしている。抱きしめられているような石、墓が遊具に。お墓参りとは良いものだと。
- ・隣の人を知る。隣に人へとインタビューして冊子にした。八戸レビュー

(10月12日)

【パネルディスカッション】 テーマ「市民協働による公共の拠点づくり」
コーディネーター 牛山久仁彦氏(明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授)

パネリスト 伊藤香織氏(東京理科大学理工学部建築学科教授)

奥山千鶴子氏(NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長)

羽賀友信氏(長岡市国際交流センター「地球広場」センター長)

松本武洋氏(埼玉県和光市長)

楠瀬耕作氏(高知県須崎市長)

楠瀬：行政のやる分野を市民に押しつけるの？＝それが市民協働？

土地柄によって受け入れにくいところもあるかもしれない。

須崎市紹介 面積 135 キロ平方 人口 2万2千人

少子高齢化、商店街空洞化、シャッター街以下→拠点づくりで解決したい
(持続可能なまちづくりに向けての取り組み)

須崎未来塾＝まちづくりのエンジン：4年間で52名が修了市役所職員も
含む。

須崎街角ギャラリー(旧証券会社)：市が買い取って、地域を起こしたい
人に入ってもらっている。

上原邸：短期滞在施設。簡易宿泊施設として運営、レンタルスペースも

すさきまちなか学舎：交流人口増加をめざしている。

松本：11.02 平方キロ 8.2万人 3万人ぐらいが昼入れ替わるまち。

東京のとなりのまち

大規模研究施設がある。知の拠点。CMとうもろこしまるかじりで石原さ
とみが出ているが今、市民がまねしている。

元気高齢者が多い、健康長寿の街、生産年齢人口が多いのが特徴、これか
ら高齢化がやってくる。

コミュニティセンターが4箇所 公民館・地域センター6箇所で市民活
動している

自治会組織率 40%前半、地縁型地域活動でとりこぼしてきた個別ニーズ
対応のNPOが活動している。

・おやこ広場、もくれんハウス：ママたちが親の子育て支援でやっていた。

夜はパパ組というものがあり、週末BBQをやるような取り組みもあり。

・核家族でほとんどじじばばの助けは受けられない状況

・まちかど健康相談室は介護予防拠点に。10-15時で常駐看護。

ゲートボール大会も 振り込み詐欺対策にも

- ・アルコイリスカフェ：一般社団法人が立ちあげた。
- ・ワンデーシェフ、子供哲学カフェ、ヨガ教室：もともと不動産屋があった店舗を改装した。イトーヨーカドーの裏にある立地。
- ・わしゃプレルーム：学童保育（学童保育のアイドルタイム活用）自治会の活動 ママ会など行われている。ボラ打ち合わせなども。
- ・サ高住ができる度に集まる場所ができる。そのようなものを作ることになっている。地域の協働拠点を拡大している。

伊藤：シビックプライド＝都市に対する市民の誇り 当事者意識に基づく自負心

- ・コミュニケーションポイントの連結を。一つで閉じない。
- ・一つのイベントだけで終わらない。学校と組んでプログラムになど組み合わせていく。
- ・間口を広く構える
- ・都市情報センター：ドイツハンブルグでは初めにこういう開発になると言うものを作ってみんなに見てもらおうことをしている。
- ・シビックプライドセンターのキーポイント：一人一人の創造性が街を変えることをイメージできる場所に

（人はなかなかこれやっても変わらないと思っている）

未来を重ねる。この計画ができるとあなたの生活はこうなる
体験できる場、理解するだけでなく何らか体験する場
共有できる、意見交換できる

奥山：NPO法人びーのびーので活動。子育て広場全国連絡協会というものあり。

- ・子育ての居場所がなかったから自分たちでつくってしまおう。
- ・平成4年から3世代は半減。31.1歳 29.4歳が初婚年齢に。
- ・初出産平均年齢も30歳を超えた。
- ・男女の育児に対する役割の違い 日本はまだ女性。
- ・次の子を産むための働き方の見直し
- ・港北区地域子育て支援拠点「どろっぶ」
- ・議員提案の協働推進条例へのとまどいあり。もっと意見きいてほしかった。
- ・子供たちはいろんな人の関わりの中で育っていくことが大事
- ・地域に開かれたオープンガーデン
子育ても小規模多機能化が求められているのでは。
拠点づくりには、寄り添い型のコーディネーターも必要。

羽賀：市民センターをつくってから市民活動団体が増えた。

ファシリテーターの存在が大事である。

市民協働を考えていかないと地方都市は持たない。

市民活動助成金制度をつくった

市民活動となると建物を無料で使えるようになる

長岡が市民活動考えているとき災害がおこって加速した。

まちなかキャンパス：大学3校 高専1校と連携した学びの場

子どもから大人まで育成する。

まちなかカフェ：大学院、市民研究所→考え方、提案の仕方を学ぶ

地縁型で間に合わないものをどうサポートするかのアプリ開発も

市役所分散しているがその上にはマンションなどあり。中心市街地に

人を戻す。壁のどこにでもインクがかける部屋をつくろうとしている。

若者どこでもワークショップがやれる。そんな自由な空間がよい。

楠瀬：地元のプライドを持ってもらいたいからゆるきやらづくりで1位。

小田哲朗に手紙を書いて作曲を頼んだ。

7つの公民館で自治組織の運営をしているところ。まだ機能していない。

雲南市を参考にしている。いくらかお金を渡して任している。

松本：和光がこれだというものがなかった。

介護が始まって和光市モデルができ、多くの視察、雑誌m t vでもとりあげてくれた。これが和光のシビックプライドになるのでは。

視察にくると地域にお金も落ちる。地域包括ケアが和光のメリットに。

子育てに関しても地域拠点で創りあげる。メディアまたとりあげてくれるNPO活動は10年前に比べ落ちている。

ママたちの活動が内に閉じているのが現状である。→共同提案制度を使って、外に開かれた活動になっていくとよいと考えて取り組んでいる。

伊藤：アオーレ長岡は市民の誇りになっている。

単なる街自慢でなく、自分も使って発信もできている場所であることはすばらしい。

須崎街角ギャラリーがすごく魅力的に感じた。地域のアイデンティティとなっている。単なる空き家活用ではなく、よいリノベーションのとなっている。

イトーヨーカドーの裏にある、人がよく通る場所にあるというのは、目的外の人も巻き込んでいける可能性がある。こういう場所の作り方はよいと思った。

自負について：自分がやりたいからやっている。自分の存在意義が出てくる。

そんな活動がよい。

→受け入れる、任せてみるというのが重要なポイント。奥山さんの話よりちょっと参加しての場：大事であり裾野を広げる。次のリーダー、人の育成につなげる。

奥山：SNSでどんなことでも繋がっていける今の時代。高知は行きにくい面もあるが。

宿泊：そこを利用する人の責任でやってもらうこと増えているのでは。

夏を1週間すごしてみたい。子供と一緒に過ごすなどニーズあるのではないか。

新潟の子育て支援施設は広い。車で来る。雪が降る。各地でそれぞれ実施。暮らしの拠点として、通える範囲に小さな拠点があって、街の中心に大きなものがあって両方使えるとよい。

- ・これまでサークル活動をやっているのができたので活動がなくなるのが心配と思われる人いる。支援するのが役割。ボランティアが翻訳してくれることもある。主体性のあるもの閉じた活動にしないように、そこには工夫が必要である。

羽賀：アオーレ長岡は用事がなくても来る。来て話が始まる。

人をつくって、活用できるシステムをつくる 箱をつくる。この3点セットがあるとよい。

楠瀬：市民の意識をいかに醸成していくか取り組みたい。

条例を先につくってしまったが、それを具現化しなければならない。

松本：市民参加条例を練り上げた人たちが今、NPO活動をしてくれている。ただ高齢化してきているので今後どうしていくかが課題である。

- ・場の必要性を強く感じている。

PFIを活用（PFIに参加する企業とコラボして）

総合子供施設：地震でプールこわれたが復活させる

- ・駅前再開発があるが、広場をどうつくっていくか。大きな屋根をかけるというのは今回参考になった。
- ・鍋グランプリをやっている。今、市役所でやっているが屋根があるところでやれるとよい。

（質疑応答）

問 外国人の参加のあり方は

答 松本：外国人は住民提案からは外している。

外国人でもシビックプライドとなるようなノーベル賞をとれるような人もいるので楽しみにしたい。

伊藤：移民と一緒にシビックプライドを作ろうとしていたというイギリスの歴史もある。郷土への想いが大切か。

楠瀬：シティプロモーションに熱心な職員がいた。まめにSNS使って更新していた。職員には当時、自由にやらせた。今のキャラクターを選んだのは市長の案と違ってしたが、若い職員が選んだものがよかった。

松本：和光のモデルも熱心な職員がいた。厚生労働省に2年いていた。全国行脚もしていた。

マスコミが来的时候に、取材をすべて受け入れろ、視察も受け入れろという姿勢でやっている。常に和光を発信している。

問 アオーレについて

答 羽賀：このままでは経済衰退、シャッター外の危機感があった。

駅と直結になったので多目的に使える。スポーツにも使えた。

年間維持費が5億円かかる。その点も市民協働で考えていかなければならないのかも。

・何が本当に問題なのか課題なのか 今その課題はあるのか、それに対する対策を本当に考えていかなければならない。

所 感：

市民協働を推進していく上で、様々な事例や考え方をお聞きすることが出来、拠点の大切さを感じたところである。長岡市という新幹線が止まる駅からの直結の施設との比較は規模の違いを考慮しなければならないが、尾張地区にこのような屋根付き広場はないと思われるため、岩倉駅東側地区に五条川を活かしながら設置することができると、駅の賑わいづくりにもなり、良いと考える。本当に、駅前が寂れることは寂しいことである。市民協働の拠点を考えるにおいて、以前に取り組みされた「人の駅の事業を検証すると共に、本当に岩倉市で拠点は必要かといったことから議論をし、市民と行政がその気になる手順を踏んで進めていく必要がある。